

1 題材名 混声合唱の表現を工夫して歌おう 「HEIWA の鐘」

2 題材の目標

歌詞の内容や反復を味わい、そのよさを表現に生かして合唱する。(A表現ア)

3 本題材で学習する主な〔共通事項〕

歌詞と旋律、強弱、反復、沖縄音階

4 題材及び教材について

中学校学習指導用要領解説音楽編（平成20年9月 文部科学省）において、第2学年及び第3学年の目標として「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。」とある。今回は、校内合唱コンクールとの関連性をもたせ、混声合唱の表現を工夫する楽しさを学ばせたい。

教材「HEIWA の鐘」（仲里幸広作詞・作曲 白石哲也編曲）は、生徒に人気のある合唱曲である。この曲は、沖縄の伝統がテーマとなる歌詞の所で沖縄音階が使われていたり、戦争がテーマとなる部分では短三和音が用いられていたりし、歌詞と音楽に強い関連性がある。また、曲が盛り上がっていきけるように効果的に反復が用いられており、合唱における表現を学習する上で大変価値ある教材である。指導においては、歌詞と音楽の関連性に着目し、そこから強弱を工夫して、表現することのおもしろさを味わわせたい。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
歌唱	○	○	○
器楽			
創作			
鑑賞			
題材の 評価規準	歌詞の内容や反復を理解し、そのよさを表現に生かして合唱することに意欲的である。	歌詞の内容や反復を理解し、そのよさを生かして表現を工夫している。	歌詞の内容や反復を理解し、そのよさを表現に生かして歌唱する技能を身に付けている。
具体的 評価規準	① 腹式呼吸や頭声発声を積極的にいき、美しい声で歌うことに意欲的である。 ② 曲の構成や歌詞の内容のよさや特徴を生かした表現を積極的に提言し、よりよい合唱をすることに意欲的である。	① 曲の表現を考えるグループ活動において、沖縄旋律の特色や歌詞と音楽の関連性を理解し、歌詞と旋律の特徴を強弱や表情などの表現に生かすためのアイデアを出している。	① 歌詞の内容や反復を理解し、そのよさを表現に生かして腹式呼吸や頭声発声で、美しくのびのびと歌う技能を身に付けている。

6 学習の評価の計画（6時間扱い）

次（時）	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 （第1時）	○「HEIWAの鐘」を鑑賞し、イメージを膨らませます。	『「HEIWAの鐘」を鑑賞しよう。』 ○「HEIWAの鐘」を聴き、この曲をどう歌っていきたいかを考え、動機を高める。	アー①
第2次 （第2時） （第3時）	○各パートがそれぞれ正しい音程で歌えるようにする。	「パート練習をして音程を確認しよう。」 ○ピアノ、キーボード、CDを用い、各パートの音取りを行う。	
第3次 （第4時） （第5時） 本時	○歌詞の内容と反復などを理解し、表現につなげる。	「歌詞の内容を確認し、表現を工夫しよう。」 ○歌詞を朗読し、タイトルのもつ意味や、その曲の表す世界を理解する。 ○歌詞と曲の関連性を理解する。 ○強弱や表情をどのようにして表現に生かしていくかをグループで話し合う。 ○表現の工夫を各パートごとに聴き合い、その感想を述べ合う。	アー② イー①
第4次 （第6時）	○ステージで歌う上での正しい作法を実践しながら、まとめの合唱をする。	「ステージマナーを確認して、まとめの合唱をしよう。」 ○指揮と伴奏と合わせて演奏し、大勢の聴衆を前にした際の、ステージ上でのマナーや美しい姿勢を確認し、まとめの合唱をする。	ウー①

7 本時の学習

(1) 目標

歌詞の内容や反復を理解し、そのよさを生かして表現を工夫する。

(2) 展開

(○=個への配慮 ●=指導上の留意点 ◎=評価)

学習活動	指導上の留意点
1 発声練習をする。 ・校歌を歌う。	● 歌いやすい曲を選び、生徒がのびのびと明るい声で歌えるようにする。
2 本時の学習課題を確認する。 歌詞の内容や反復を確認し、ふさわしい強弱を工夫しよう。	● 本時の学習の課題を提示する。
3 歌詞の内容を学習する。	● ワークシートを出し、前時の歌詞の内容などを確認した後、ユニゾン、掛け合い、ハーモニーなどの曲の構成とテクスチャを説明する。

4 表現の方法を考え、実践する。  
(1) グループ内での話し合いと練習

予想される生徒の反応

- a 大切な言葉または沖縄音階を強調することを提案している。
- b サビへの流れに向かって、反復の強弱を工夫している。
- c 全体の中での自分のパートの旋律の役割を理解し、それに応じた歌い方をしようとしている。

(2) 表現の工夫の聴き合いと共有

5 本時のまとめをする。

● 練習記号CからFにかけてをどのように表現していくか、グループごとに話し合う。

- a の生徒には、ブレスの位置などを工夫し、その言葉が効果的に聴こえるように助言する。
- b の生徒には、楽譜の強弱記号を参考にするよう助言する。
- c の生徒には、主旋律とそうでない旋律とをしっかりと歌い分けるよう支援する。

◎ 曲の表現を考えるグループ活動において、沖縄旋律の特色や歌詞と音楽の関連性を理解し、歌詞と旋律の特徴を強弱や表情などの表現に生かすためのアイデアを出している。イー① (観察・ワークシート)

● 話し合いで出た表現を工夫したいことをグループのリーダーが発表する。その後、パートごとに分かれ、その表現を工夫して練習する。

● 練習の後、各パートごとに演奏発表し、感想を述べ合ったり、その表現が聴き手に伝わるものであったかどうかを吟味したりする。

● それぞれのパートのよかった点を自分たちのパートの歌唱にも生かすよう、楽譜に記入させる。